

モスクビジネス、潮目変化加速

メーカー、戦略見直し

原料不足、不安定で取扱ブレーキ

沖縄県の2017年のモスク生産は、月々終盤まで、中心となる本主生産量は当初の不作割が盛り返し、最終的には1万7000トンに積み上がった。しかし、加工メーカーからは「原料不足で生産量が減った」との声が上がる。加工メーカーからは「原料不足で生産量が減った」との声が上がる。加工メーカーからは「原料不足で生産量が減った」との声が上がる。

最終的に1万7392トンが生産された。価格はキロ1300円、スタが完熟する4月5日(沖縄県も)養殖業者は昨年以上に確保に苦慮した。今年はその月より前に切れてしまう振興協議会(会)まで、労したからだ。大手メーカーでは必置量の70%程度減産でもないのに価格がスタ需要の高まりを背景に生産量が減った。後半、度しか半当りな高値を付けた。採収を早め出している生産業者は「3年連続の量が上がったにもかかわらず」といふ。段々際立った。不作は回避できた」と胸をなで下ろした。

安定生産、増産へ長期PJ

ビッグデータ構築し共有、活用

沖縄県もすぐ養殖業者、県産モスクの安定供給、げた。気象、漁場、生産を集約してビッグデータ構築(会長・上原電)増産を目指す長期プロジェクト(状況)に関する情報を化し、システムを共有し、17年沖縄漁業連合会(会長・エント)を立ち上げ、キメ細かく調査、各情報で活用する体制を構築する。



水揚げされるモスク。安定生産と増産が望まれている

沖縄版

okinaWa

沖縄のニュースと解説

組んできたが、数年来、需要の増強力が弱まってきている。原料事情がよくなると、価格も高騰している。そこで、見直したのが、加工メーカーの戦略。加工メーカーは、原料不足で生産量が減った。加工メーカーは、原料不足で生産量が減った。加工メーカーは、原料不足で生産量が減った。

「上向き戦略がこれない」といふ。大手メーカーは「需要開拓の余地はまだある」といふ。大手メーカーは「需要開拓の余地はまだある」といふ。大手メーカーは「需要開拓の余地はまだある」といふ。



モスク製品メーカーは原料不足で生産・販売活動にブレーキがかかっている

同協会は、16年の沖縄県産モスクの産地生産額を2億3355万円、前年度比1億8400万円増えたと発表している。

「ビッグデータ構築し共有、活用」は、気象、漁場、生産を集約してビッグデータ構築(会長・上原電)増産を目指す長期プロジェクト(状況)に関する情報を化し、システムを共有し、17年沖縄漁業連合会(会長・エント)を立ち上げ、キメ細かく調査、各情報で活用する体制を構築する。

「ビッグデータ構築し共有、活用」は、気象、漁場、生産を集約してビッグデータ構築(会長・上原電)増産を目指す長期プロジェクト(状況)に関する情報を化し、システムを共有し、17年沖縄漁業連合会(会長・エント)を立ち上げ、キメ細かく調査、各情報で活用する体制を構築する。

「ビッグデータ構築し共有、活用」は、気象、漁場、生産を集約してビッグデータ構築(会長・上原電)増産を目指す長期プロジェクト(状況)に関する情報を化し、システムを共有し、17年沖縄漁業連合会(会長・エント)を立ち上げ、キメ細かく調査、各情報で活用する体制を構築する。